オンライン100人女子会プロジェクト
―リポート―

やまがた暮らしの女性のホンネ

PICK UP

＼女性のホンネ　その１／

オンライン100人女子会

「仕事」「家庭生活」「地域・暮らし」をテーマに対話

＼女性のホンネ　その２／

インターネットアンケート「女性の暮らし方・働き方に関する調査」

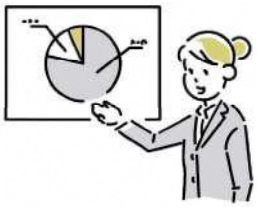
山形県の生活の満足度
仕事や暮らしの中でのモヤモヤ など

目次

01 「オンライン100人女子会プロジェクト」とは ……P2
02 オンライン100人女子会 ……P3
03 山形県の女性の暮らし方、働き方に関するアンケート調査結果 ….P9
04 実行委員会の声 ……P15
05 女性も幸せに暮らし働ける山形県のために ……P16

山形県

「オンライン100人女子会プロジェクト」とは 01



はじめに

近年、若者、特に女性の県外転出は男性の 1.5 倍と顕著になっています。今年度、県では、当事者である女性が、山形県で暮らし働くことについて、どのように考え、どんなニーズがあるかを調べるため、オンライン100人女子会プロジェクトを実施し、リポートとしてまとめました。

誰もが働きやすい・暮らしやすい山形県に向けて、身近なことからはじめるヒントにしていただければ幸いです。

プロジェクトの概要

若年女性の県内定着・回帰に向け、オンライン100人女子会の開催やアンケート調査による「若年女性の声」から女性をとりまく現状・ニーズを把握し、女性も男性もいきいきと暮らし、働ける環境づくりに活かしていくことを目的にしています。

主なプロジェクト内容

オンライン100人女子会

山形県の女性の暮らし方・働き方に関するアンケート調査

オンライン100人女子会プロジェクトリポート

この事業は、実行委員とともに進めました。

県では、このプロジェクトをともに考え、進めてくださる方を実行委員として募り、県内外在住の男女 14 人に協力いただきました。

実行委員には、オンライン100人女子会での進行役や振り返り、とりまとめを担っていただきました。

【年代】：10 代 1 人、20 代 6 人、30 代 3 人、40 代 4 人
【職業】：会社員 8 人、会社役員、フリーランス、公務員、団体職員、学生 2 人

実行委員への参加動機（一部）

いまだに男女間格差が強い地方にあって「帰ってきたい」と思えるような魅力のある故郷にするには何が必要か？を考えたい。（40 代・会社員）

生まれた時からずっと県内に住み、県外に住んだことがなく、田舎者だから都会にはすごく憧れがある。自分の中でも何かが変わるきっかけにしたい。（30 代・会社員）

山形がより住みやすく、生きやすい地域に変わるために、学生ながら何か出来ることはないかと思った。積極的に地域と関わっていきたい。（10 代・学生）

オンラインで 100％仕事をするようになり、長年離れていた地元へUターンした。私のような働き方や外を知っているからこそのマインドを、これからの山形の女性達に還元したい。（30 代・フリーランス）

女性活躍や男女共同参画に関する業務を担当しており、「女性活躍」についてよく考えるようになったが、同世代の女性がどんなことに悩んでいるのか、どんなことを必要としているのかを把握したいと思った。（20 代・公務員）

地方都市にはいまだに家制度・家父長制的慣習が脈々と残っていると実感している。その慣習は、結婚や子育てなど女性のライフイベントに大きく関係していて、女性から見ると息苦しさを感じるのではないかと考えている。少しずつそういった慣習を変えていき、都市部に出た女性でもUターンして、仕事を得るだけでなく家庭を持つことまで希望を持ってほしい。（40 代・会社役員）

オンライン１００人女子会 02

県内外の女性の皆さんから、やまがた暮らしのホンネを意見交換する「オンライン 100 人女子会」を開催しました。

日時：令和 3 年 9 月 26 日(日)13：30 ～ 16：00
場所：オンライン

参加者データ
【参加人数】102 名
【年　　代】～20 代：43%、30 代：35%、40 代～：22%
【居 住 地】県内：84%、県外：16%
【職　　業】学生：15%、社会人：85%

contents

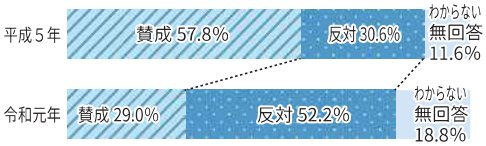
オープニングセッション　「わたしと山形暮らしの過去・現在・未来」

はじめに山形県の現状や、私たちをとりまく社会や世界の動きを共有し、今、私たちが立っている「現在地」を確認しました。

数字でみる山形県の現状

固定的な性別役割意識は徐々に解消に向かっています。また、仕事と子育てを両立しながら男性とともに地域経済・社会をけん引しています。

[夫は働き、妻は家庭を守るのが良い？] ※1)



※固定的な性別役割分担意識とは
　個人の意思や能力に関係なく、性別により役割を固定的に決めつけてしまう考え方のこと

[共働き率] ※2)

1 位 山形県	71.2%
2 位 福井県	70.5%
全　国	57.6%

[女性の正社員の割合] ※3)

1 位 福島県	53.3%
2 位 山形県	53.0%
全　国	43.3%

[働くママの割合] ※4)

1 位 島根県	81.2%
4 位 山形県	79.0%
全　国	64.2%

[三世代同居率] ※5)

1 位 山形県	17.8%
2 位 福井県	15.0%
全　国	5.7%

社会・世界の動き

持続可能な開発目標（SDGs）
ゴール 5
「ジェンダー平等を実現しよう」
日本のジェンダー・ギャップ指数 120 位 /156 ヶ国中 ※6)

数字には現れていない山形県の動き

山形県内で、従来の「普通・常識」にとらわれず、自分らしさを大切にする新しい生き方や働き方として、「エンジニア・デザイナー以外の職種のフルリモートワークをしている会社員」などを紹介。

メインセッション　～私たちの明るい未来のために～

コーディネーター 井東敬子さん
（鶴岡ナリワイプロジェクト　代表）

少人数のグループになり、「仕事」「家庭生活」「地域・暮らし」の３つのテーマで、対話形式で自由に語り合いました。

PART1 仕事（P4.5）　PART2 家庭生活（P6.7）　PART3 地域・暮らし（P8）

参加者アンケートより

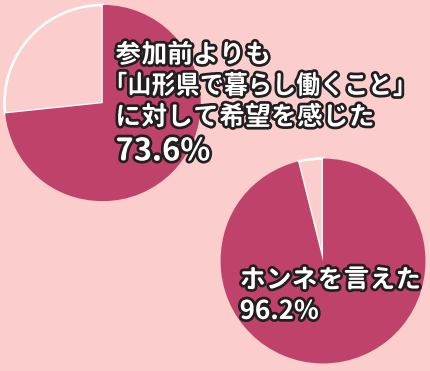
いろんな意見や共感できるところもあって参加してよかった。

普通に生活していれば出会えなかった方と山形への思いを交換することができて非常に充実した時間だった。

若いうちから結婚・出産経験者の話を聞くのはいい機会だと思った。

置かれた状況が違うと色んな見方ができるし、逆に共通で困っていることだったり、こうしてほしいと感じていることがあると知ることができた。

今回のオンライン女子会のように、日常生活のこと、日頃思う様々なことを「吐き出し」自分自身を認め、他者の価値観を認め合う場が必要。



出典：　※1)「県民の意識調査結果報告書」(H5)、「ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識・企業実態調査」(R1)（いずれも山形県）をもとに作成
※2、4、5)「平成 27 年国勢調査」(総務省)
※3)「平成 29 年就業構造基本調査」(総務省)
※6)「グローバルジェンダーギャップレポート 2021」(世界経済フォーラム)

PART 1／仕事

皆さんの会社はどっちですか？

職場について

働きやすくなっている

- **職場での男女の役割が平等になってきている。**男性もお茶くみや掃除などをするようになる等変化に希望が持てる。
- 女性上司も女性社員も増え、働きやすくなってきている。

古い体質の会社もまだ残っている

- **「女性だけが制服」「組織的に女性の仕事は補佐的な内容だけ」という面がいまだにある。**
- 民間企業に 10 年勤務しているが、職場は男社会で女性管理職はゼロ。

当然のように“女性らしさ”を期待される違和感

- 「女性らしい発想を期待している」と言われ、「私らしさ」よりも「女性らしさ」を求められることに困惑した。
- 宴会でのお酌、料理の取り分けを指導されたことがあった。
- 企画の提案で「女性が『可愛い』と思えるもの」を考えてほしいと言われ、**「女性 = 可愛いものが好き」という考え方や女性らしさを求められることにとても違和感がある。**

実は、山形県は昇進している女性が多い

企業における女性管理職割合（R2）（課長相当以上）

全国平均	12.4%
山 形 県	15.0%

出典：「雇用均等基本調査」（厚生労働省）
「県労働条件等実態調査」（山形県）

実行委員会の声

私が社会人になった頃と比べて職場は全然変わった。いろんな人が声をあげたことで社会全体が変わってきたのだと思う。

県内で働くことについて

県内で働いている人の声をもっと聞きたい

- 「山形には仕事がない」は思い込み。高校までにどれだけ山形を知ることができるかが大切。
- 求人票だけで判断するのが難しい。実際に働いている人の生の声が聞きたい。
- **高校生などの若いうちから、いろいろな世代の女性と話せる機会を増やして、選択肢や視野を広げられたら良いと思った。**
- 高校生以降も職場体験などがあればいいなと思った。

県内では女性が仕事で活躍するのは難しそう？

- 山形に住み続けたいけれど、**山形でどういう仕事ができるのかがわからず、希望が持てない。**
- 製造業が多いなど、職種の偏りがあり、女性が仕事で活躍するのは難しいのかなと思う。
- 若い世代が活躍している企業が少ないと思う。
- 山形が好きなので、好きな環境で働けることは嬉しいが、賃金が低いことや仕事の種類が都会より限られることにマイナスのイメージがある。

働き方について

「安定した仕事」を期待されている

- 祖父母世代は特に**「安定した職に就くのが良い」と考える人が多い気がする。**私もそう思う時もあるが、やりたいことにチャレンジしたい。
- フリーランスの仕事なので、日中家にいると、ご近所に「あの奥さんは何しているんだ？」と言われる。いろんな働き方があっても良いのにと感じる。

私たちの今、そしてこれからの働き方

- 今は SNS やオンラインで出会いの場が広がり、人脈が作りやすくなった。リモートが進み、山形にも意外と面白い企業が増えている。
- 将来は**山形と県外に拠点を持って活動したい。**今は、パソコンさえあればどこでもなんでもできる時代。働く価値観も様々。

評価について

優秀な人が多い一方できちんと評価されていない

・**山形の女性は優秀な人が多い（仕事をきっちりこなす、段取りよくしている）のに、県内では評価されていない**ことを県外に出て痛感した。

賃金が低い

・**就職活動で大卒の給与の低さに驚いた。**

・都心部と比べて10万円ほど月給の差があり、金銭面を考えると山形で働きにくい。

転職しながらキャリアアップできる環境が欲しい

・**1つの企業で長く働く人が多いイメージだが、もっと転職がキャリアアップにつながる環境になってほしい。**

・「転職＝ネガティブ」というイメージが残っており、人材が流動していない気がする。

職業選択について

キャリアや希望にあう仕事が少なそう

・高学歴でキャリアがある人がUターンしたいと思ったときに経験を活かした就職先を探すのが難しい（給料の格差もある）。

・**職種が少なくやりたい仕事を見つけるのが難しい。**

実行委員会の声

若年女性に、山形県内での仕事がよく知られていないのかもしれない。また、○○業・○○職しかないといった偏ったイメージを持っており、そのイメージと自分の理想・希望が違うことで、山形県で働くことに希望が持てないのでは？

山形の女性の賃金

女性労働者（正規雇用＋非正規雇用）の所定内給与

	全国順位	金　額	全国一位（東京）
H29	43 位	206.2 千円	303.0 千円
H30	45 位	206.6 千円	300.6 千円
R 1	46 位	204.0 千円	305.8 千円
R 2	42 位	213.9 千円	302.7 千円

出典：「令和２年賃金構造基本統計調査」（厚生労働省）

給与額及び全国順位は、年々低下

実行委員会の声

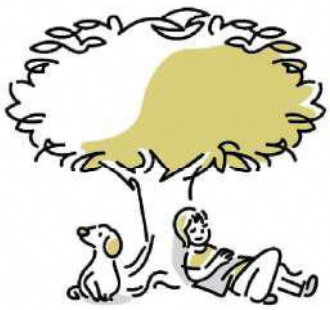
上の世代は、賃金が低くて苦労してきたからこそ、心配して安定を望むのかなぁ？地元で女性が活躍するためにも、経済的自立にも、年収アップは必要だと思う！

女性のキャリアについて

子育てもキャリアも大事にしたい

・山形県は子どもを生むにはいいところ。だけど、**子どもも生みたいし、価値ある仕事も手掛けたい**し、子育てと仕事を両立したい。それを上司にわかってもらえず退職した。女性のやる気を応援してほしい。

・妊娠・出産は女性にしかできないので、仕事をしていても休暇は取らざるを得ないし、**若いうちから妊娠・出産を考えてキャリアを組み立てないといけない面が男性とは違う。**男性の中には“子育ては女性にまかせればいい”と考える人もいて、不平等さを感じる。



山形県にUターンしたい♡

・県外就職した新卒当時は、いつかは帰りたいけどそれ以上に新しい出会いに期待を寄せて、まったく知らない地域で働いてみたい気持ちだった。自分に合った環境ならば永住してもいいかなとも思っていた。**今は、山形に帰れたら帰りたいけどその糸口がつかめない。**

・コロナ渦で、都会での生活に寂しさを感じている。家族や友達がいるアットホームな地元に戻りたい。

就職するなら都会？それとも山形？

・コロナによる生活の窮屈さを感じて、山形で就職した。

・**就職試験の挨拶で山形の人はあったかいなと感じて一緒に働きたいと思った。これがきっかけで山形に就職を決めた。**

・**仕事だけでなく私生活も楽しみたいと考えたときに都会は魅力的**に感じる。

・東京でOLになって便利さやおしゃれさなどを見てしまうと、山形に帰ってどんな仕事ができるんだろうと東京と比べてしまう。こうした現状が首都圏進学の大学生でUターンが少ない原因かと思う。

PART 2／家庭生活

結婚・家庭に対する考え方

多様な女性の「生き方・価値観」を受け入れてほしい

・周囲の友達は、**「早く結婚したほうがいい」などの上の世代からの声が嫌**で県外に行く人が多い。

・東京にいる男性と別居婚や事実婚、夫婦別姓を考えているが、山形では昔ながらの価値観が根強く、親の説得や、やりたい仕事をやりながら、夫婦で家事も子育ても分担することへの周りの目線など、山形での家庭生活に不安を感じる。

令和時代の「当たり前」って？

・**「家庭」には、結婚している人や子育て中の人だけではなく、１人暮らしで働く独身者も含め、いろんな形がある。様々な家庭の形が、女性の活躍や自分らしい仕事につながる**と思う。

・地元の30 代の男性が、「長男だから親と同居しないといけないのに、妻に拒否された。離婚するかも。」と話しているのを聞き、古い考えに驚いた。「長男だから同居」は今の時代当たり前ではない。

・今の結婚制度は面倒な手続きや名字の問題など、我慢の上に成り立っていると思う。一方、親世代の苦労を見てきた若い世代は「２人で意見をすり合わせ自分達に合った過ごし方が出来ればいいよ」など、自分らしく生きたいと考えている。

「お母さん」の負担が大きい

・（教え子の）女子学生には「結婚したくない」「結婚に興味がない」という子が多い。理由を聞くと、外ではお父さんもお母さんも働いているのに、家の中では**お母さんだけ動いて大変そう**で**「お母さんみたいになりたくないから」**との答え。

・専業主婦の母と公務員の父の家庭で育った。母は自分にすべてを注いでくれたが、母という役割はこんなに我慢しなければいけないのかと思うことがあった。東京に進学し、女性も自分がやりたい仕事をやっていいと気づいた。

・若い世代に、**「家庭のことは女性の役割で、それを放り投げたら周りからどう言われるかわからない」という価値観**がすりこまれている。妻・母の役割に世間からの評価も加わり、母親は二重三重に我慢しているイメージになっている。

夫婦の役割分担について

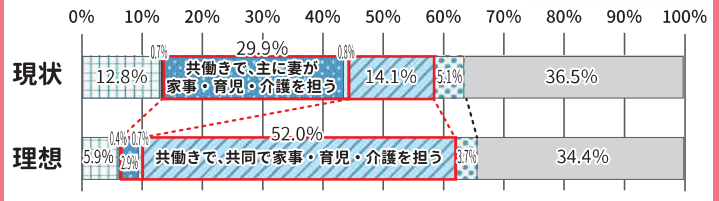
山形の男性は育児に協力的、でも…

・小児科に子どもを連れてくる男性をよく見かける。県外では見なかった。**山形の男性は育児参加が進んでいる**と思う。

・周りでも育児参加している男性が多い気はするが、**家事を主に進めるのは女性という考えは消えていない**と思う。

理想と現実にギャップあり

「夫婦の役割分担」の現状・理想



- 夫が働き、妻が家事・育児・介護を担う
- 妻が働き、夫が家事・育児・介護を担う
- 共働きで、主に妻が家事・育児・介護を担う
- 共働きで、主に夫が家事・育児・介護を担う
- 共働きで、共同で家事・育児・介護を担う
- わからない・その他
- 無回答

出典：「R１ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識・企業実態調査」（山形県）

実行委員会の声

若い人ほど育児に協力的で抵抗がない反面、年配の方の理解が進んでいない。この状況を変えるには、自治体などが率先して取り組む必要があると思った。

仕事と家庭生活の両立は大変…

・家事、育児と仕事との両立は大変だった。育児も家事もやって、働きたいならどうぞという環境。自分の体調が悪くても子育てに対する夫の協力はなかった。仕事を辞めたいと何度か思った。

・山形の女性は仕事、家事、子育て、介護と自分を酷使しており、自分にかけるお金や時間がない。かわいいや美しくなりたいことに諦めを感じた。

平日１日あたりの仕事・家事・育児時間

家事・育児時間は男性の約 **3.5倍**

仕事・家事・育児を合わせると毎日女性が2時間長く従事

total：9時間23分

total：11時間43分

「ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識調査」(R1)(山形県)を元に睡眠時間(8時間と想定)を除いた16時間の内訳として作成

男性ももっと育児に参画してほしい

・**育児休暇を取得する男性はいまだに少なく**感じる。若い男性が取りやすいように、**男性上司の理解や考え方を変える機会**を作ってほしい。

・産後や一番手がかかる時期にもっと育児に参加してほしかった。

・初めての育児で自覚症状がないまま育児ノイローゼになっていた。男性もある期間だけでも育休をとって一緒に子育てや家事をしてくれたら、お互いの苦労や相手を思いやる余裕もできるのでは？

実行委員会の声

共働き率が高いのに家事の負担は女性が圧倒的に多い。男も女も関係なくお互い支え合って生きたほうが良いと思う。

子育て・教育環境について

自然・温泉・子育て施設が充実

・子どもを遊ばせる場所として、山形は自然が多いためコロナ禍でもあまり困らない。

・山形の近県に在住し、月１日程度山形に帰っているが、山形は**子どもが遊べる施設が充実**していて魅力的。山形市から30分圏内にたくさんの公園がある。遊具や芝生もあり、駐車場も整備されている。

・山形のアウトドアは落ち着ける雰囲気があり贅沢に感じる。**山や川など、自然環境にも恵まれている。**温泉がたくさんあるのも魅力。

もっと充実させてほしい

・人口が少ない市町村では子育て支援センターなどの施設があまり充実してない。

・**教育の選択肢が少ない。**子どもの教育環境だけを考えたら、都会の方が良いかも。

・コロナ禍で出産入院中も面会できず、出産後も交流も少なく、全てを自分１人でやらなければならなかった。退院後のケア等、行政サービスをもっと手厚くして欲しかった。

山形県の子育て環境

子育て支援拠点は、全市町村あり

計 109 カ所！

人数(0～4歳児)あたりの拠点数は

全国トップクラス

PART 3／地域・暮らし

人づきあい

地域の子どもをみんなで育てる雰囲気がある

・高校の時、地域の人がよく見ていてくれると感じた。田舎ならではで、ほっこりした。

・山形の地域性として、過干渉な面もあるが、みんなで子育てしていこうという雰囲気は働きやすさや生きやすさにも関わってくると思う。

・山形は**地域みんなで子育てを支えようという意識、気概を感じる**。みんなが子どもをかわいがってくれる。

つながり・助け合い、それが山形の良さ

・コミュニティが狭く、自分を良く知ってもらってるからこそ、産後に自分に合った良い職場を紹介してもらえた。

・地元では当たり前の町内会での芋煮会やビアガーデンが全国的に一般的ではないことを知った。**地域のつながりはあたたかいし、そのつながりがあるから助け合いの気持ちもあるし、それが山形の良さ**かなと山形を出てから思った。

田舎のコミュニティは一長一短

・小さな集落に住んでいるため、皆が憶測で噂話をしている。余計なお世話であり放っておけばいいのにと思う。しかし、困ったときに助け合えるというメリットもある。

・田舎だと干渉が多く、他人の家庭環境を周りが良く知っている。**地域が狭く、ありがたい面もあるが、プライバシーがない**と感じる。

・「村社会は何でも筒抜け」という悪い面もあるが、**困ったときはお互い様**という良い面もある。子育てを経験したおじいちゃんやおばあちゃんがすぐ側にいるという環境にある。

実行委員会の声

仕事の分野に比べて、地域には男女格差が残っていると思う。

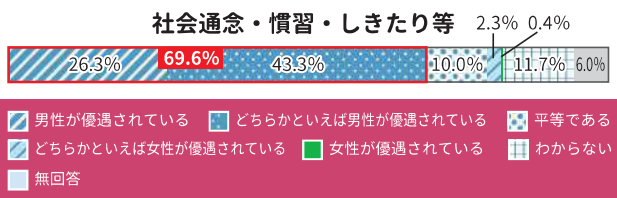
若者・女性の地位が低い

・集落の総会に行っても、若い世代は発言させてもらえない。上の世代の方には、**若い世代が変えていきたいこと思っていることを言いづらい雰囲気**がある。

・冠婚葬祭や親族が集まる宴席などで、いまだに女性だけが働いている姿を見かける。３世代同居だとなおさらな気がする。

・**PTA などの地域団体は、実際活動しているのは女性なのにトップは男性であることが多い**。しかし、最近では、役員の名前に女性が並ぶように。時代は変わりつつあると感じる。

男女の地位の平等感



出典：「R1ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識・企業実態調査」（山形県）

男性優遇と感じている人が多い

自治会・町内会・子ども会

地域の活動を見直してほしい

・地域行事（消防団・土手の草刈り等）で義父の負担が大きく人手も足りない。女性に力仕事は大変なので、地域を助ける仕組みが欲しい。家庭の家事を分担するように、村の仕事も見直していけないかと思う。

・**町内会、老人会、子ども会で折り合いをつけるのが難しい**。年配者や長く住んでいる方が活動を残したい一方、活動に時間が割けないという若い世代の気持ちもある。

生活環境について

学生と地域のつながりが欲しい

・遊び盛りの年代にとって娯楽が少ない。学生の溜まり場のような所が少なく、もう少し学生の頃に楽しめていたら県内にいたのかなと思ってしまう。

・子ども会は中学生までであり、卒業後は成人式まで地域との繋がりがない。**学校と地域のつながりを途絶えさせないためのコミュニティが欲しい。**学生と大人が話せる語り場などが欲しい。

交通環境はいまひとつ 食べ物・自然が豊富

・**電車やバスの運賃が高く**、遊ぶ場所が限られている。

・何もないのが落ち着く。

・**アウトドアが好きだから、山形は最高な環境！**

・食べ物が美味しい。自然も豊かで、都会にいる時よりもリラックスして伸び伸び過ごせる。東京に帰るとストレスフルな生活で窮屈になるので、いつかは山形に帰りたい。

山形県の女性の暮らし方、働き方に関するアンケート調査結果

03

女性も幸せに暮らし、働ける山形に

若年女性の転出超過が課題となる中、女性の転出志向や希望する暮らし方、働き方の要素などの女性の現状・ニーズを把握するため、アンケート調査を実施しました。

県内の女性たちから、山形は暮らしやすい、住みやすい、でも「ここはちょっと残念」「もっと良くなるはず」という、なかなか言えないけど、あえて言いたい！というリアルな声が届きました。

今まで以上に暮らしやすい、働きやすい山形県にするために、【仕事・働き方】【家庭生活】【地域・暮らし】を軸にとりまとめました。

概　要

【対　　象】
山形県在住または山形県へのUIJターン等に関心がある方（学生・生徒を含む）

【実施期間】
令和3年11月5日～11月30日（26日間）

【実施方法】
インターネットアンケートフォームを活用したオンライン回答募集

【回収数】
1,310件（女性1,121件、男性183件、その他6件）

項　目

1. 今後の人生で最も長く住みたい場所と生活の満足度【P10】
Q1. 今後の人生で最も長く住みたい場所とその理由
Q2. 山形県の生活の満足度

2. 仕事・働き方について【P11】
Q3. 現在の職場の状況
Q4. 山形県の企業に望むこと
Q5. 希望する働き方ができる環境
Q6. 現在の職場での昇進について
Q7. どのような状況であれば昇進したいか

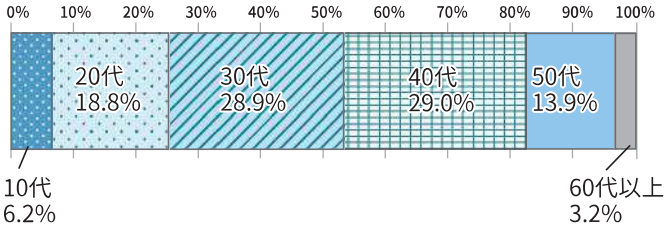
3. 家庭生活について【P13】
Q8. 役割分担意識について

4. 地域・暮らしについて【P13】
Q9. 希望する暮らし方ができる環境

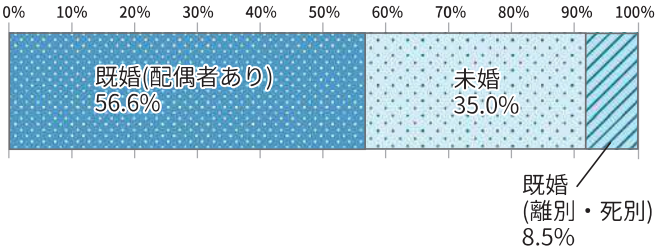
5. 山形県で暮らし、働くことへの意識について【P14】
Q10. 山形県での仕事や暮らしの中でのモヤモヤ

回答者の属性（女性のみ抜粋）　N=1,121

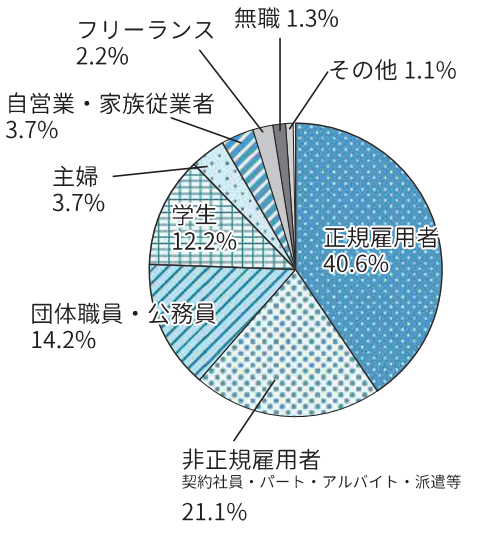
年代別



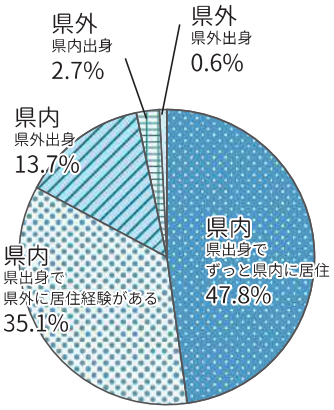
未婚既婚別



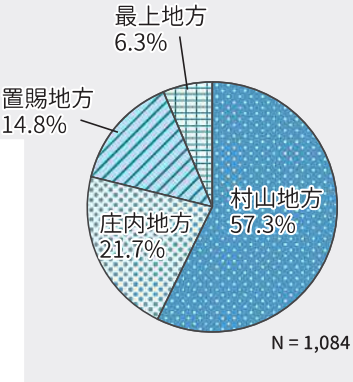
職業別



居住地別



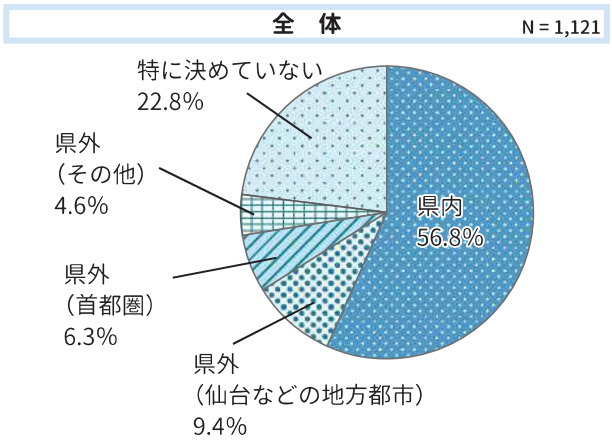
県内居住者の内訳



＊アンケート調査結果の自由記述欄等に関し、紙面等の都合により一部編集して掲載しております。

01 今後の人生で最も長く住みたい場所と生活の満足度

Q 1-1 あなたは今後どこに住みたいと思いますか？ 今後の人生で最も長く住みたいと思う場所を選んでください。

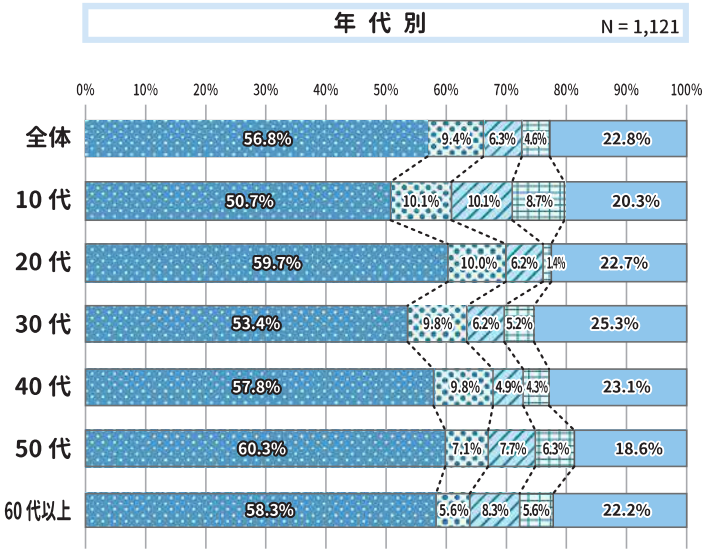


半数以上が「県内」と回答し、「県外」「特に決めていない」は各 2 割。

「県内」が 56.8% と最も多く、ついで「特に決めていない」(22.8%) となっています。また「県外」と回答した割合の合計は 20.3% となっており、内訳としては「仙台などの地方都市」が 9.4% と最も多くなっています。

【グラフ共通色】

- 県内
- 県外（仙台などの地方都市）
- 県外（首都圏）
- 県外（その他）
- 特に決めていない



いずれの世代も半数以上が「県内」と回答

世代別に見ると、いずれの世代でも「県内」に住みたいと回答した割合が半数を超えたものの、10 代は 50.7%、30 代では 53.4% にとどまりました。「県外」の回答を合計した割合が最も高かったのは 10 代 (28.9%) で県外志向が強い傾向が見られる一方、「特に決めていない」は 30 代 (25.3%) が最も高い結果となりました。

Q 1-2 住みたい場所を選んだ理由は何ですか（自由記述）

県内に住みたい

住み慣れているから、自然環境や食などを重視

- 実家があり、血縁も友人も子どもの友達も、今の住み慣れたここ山形にその環境があるから。
- 家族や友達がいる環境で子育て等をしたいから。
- 生活に不便が無く、仙台や東京に行くのも便利になったから。
- 食べ物が美味しく、温泉もあるから。
- 自分のスタイルを確立できれば、自然が多く、カナダや北欧などのような心地良い暮らしができるから。
- 災害が少ないから。
- 家を守らないといけないから。
- 生活しやすい、通勤が快適、人が優しいから。

県外に住みたい

仕事の種類や給与、公共交通、雪の少なさなどを重視

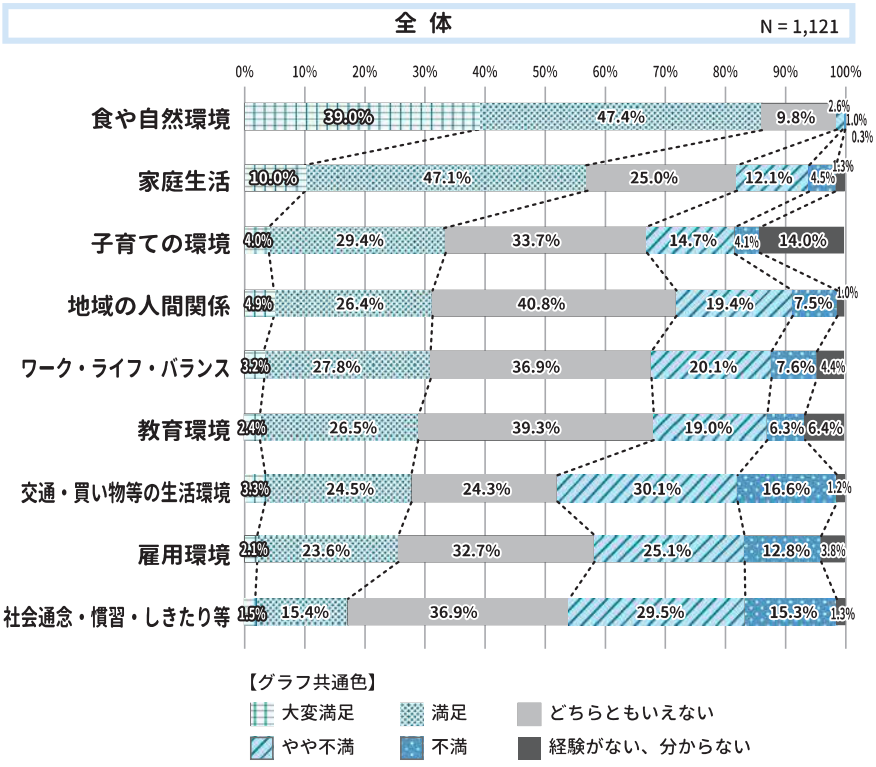
- 雪が少なくインフラや交通機関がしっかりしている県に住みたいから。
- 舞台、コンサート、美術館や展示などの文化に触れる機会が多いから。
- 気候が穏やかな所に住みたい。
- 就きたい仕事があるから。
- 友人がほとんど県内に残っていないため、旧来的価値観が残る地縁に配慮して受け入れる必要がないから。
- 移住してきたが、よそ者をよそ者と言わないところに住みたいから。
- 仕事が少ない、給料が少ない、不便、子どもが遊ぶ場所が無いから。
- 教育や仕事の選択肢が多く、多様な価値観が存在するから。

特に決めていない

自分や家族の状況に合わせて考えたい人が多い

- 学びやすい環境で、ある程度はひらけていることや、医療や福祉のサービスが受けやすいことを基準に選びたいから。
- 自分や家族の状況に合わせて居住環境も決めたいので、「ここにずっと住む」とは決めていないから。
- ご近所付き合いが疲れるから。
- 高齢者にとって便利がよく、住みやすい場所に行きたいから。
- 子どもが出来たら自然の中で遊ばせたいが、大きくなるにつれて首都圏の方が生活しやすいと思うから。

Q2 山形県の生活の満足度を教えてください。



食や自然環境への満足度が高い一方、公共交通や慣習・しきたり等が不満

「大変満足」と「満足」を合わせた“満足”は「食や自然環境」が 86.4% と最も高く、ついで「家庭生活」(57.1%)、「子育ての環境」(33.4%) となっています。

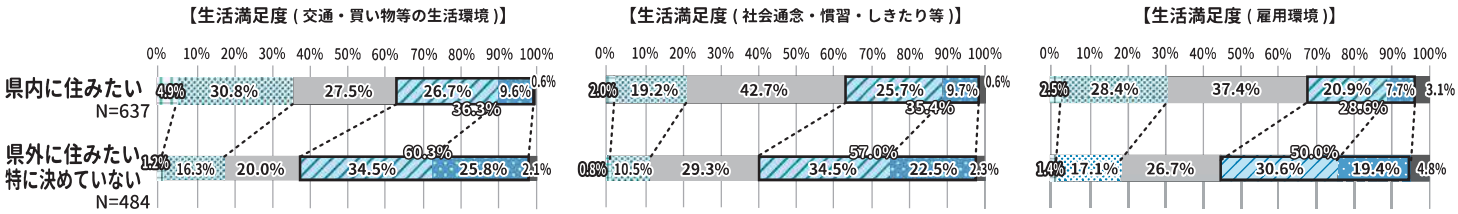
一方、「不満」と「やや不満」を合わせた“不満”は「交通・買い物等の生活環境」が 46.7% と最も高く、ついで「社会通念・慣習・しきたり等」(44.8%)、「雇用環境」(37.9%) と続きました。

自由記述欄の声

- 食べ物がおいしく、自然が豊かで、人柄が良く、居心地が良い。
- ご近所の目は怖いときもあるけど、適度な距離を保てれば、幼い頃から慣れた環境で安心して暮らし続けられている。
- 子育ても親の協力を得やすく、遊び場が少なくてもそこまで困っていない。

今後の人生で住みたい場所別（不満度の高い 3 項目）

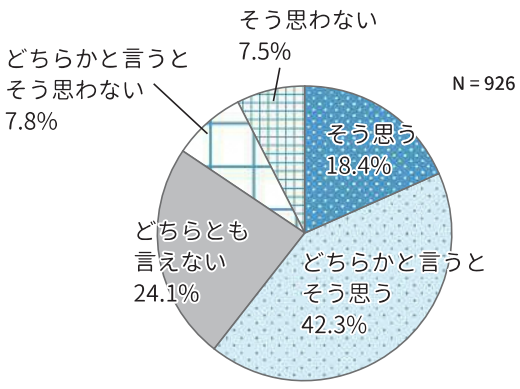
生活満足度の低い項目で、県外希望・特に決めていない女性は半数以上が不満と回答



今後の人生で最も長く住みたい場所別では、県外に住みたい・特に決めていない女性は、それぞれ 60.3%、57.0%、50.0% と、いずれも県内希望者より 20% 以上多く、大きな差が見られました。

02 仕事・働き方について

Q3 現在の職場は、能力を発揮できる仕事・環境ですか？



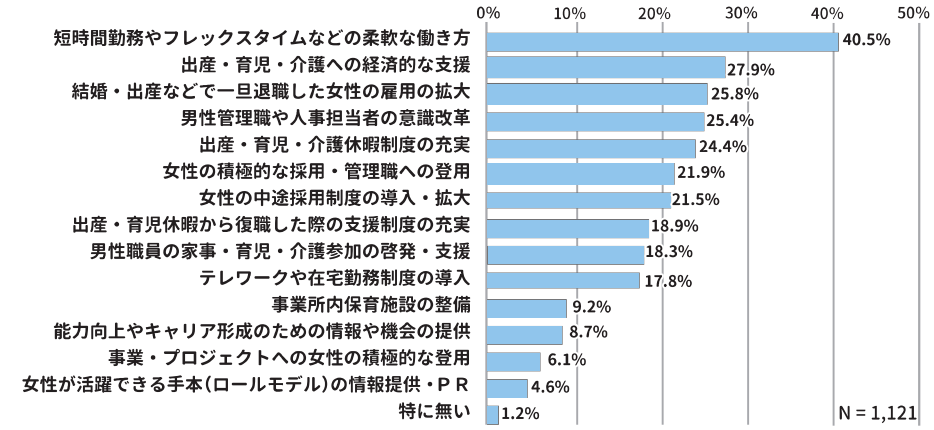
「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」を合わせると 60.7% に

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”が 60.7% となっています。一方で、「どちらとも言えない」が 24.1%、「そう思うわない」「どちらかと言うとそう思わない」を合わせた“そう思わない”が 15.3% になりました。

自由記述欄の声

- 職場は女性が多く働きやすく、子どものことで休みやすい雰囲気。他ではなかなかこのように充実した福利厚生はない。

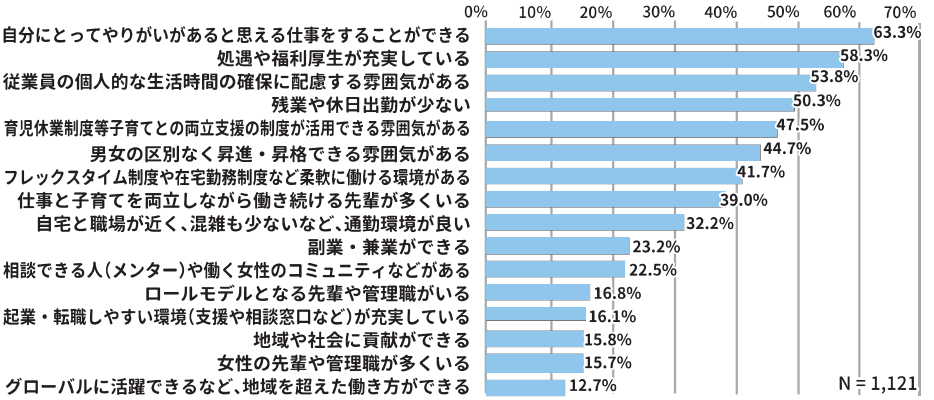
Q4 山形県の企業に望むことはどのようなことですか？（３つまで選択）



柔軟な働き方や経済的支援を重視

「短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟な働き方」が 40.5% と最も高く、ついで「出産・育児・介護への経済的な支援」(27.9%)「結婚・出産などで一旦退職した女性の雇用の拡大」(25.8%) となっており、経済的な支援や制度の充実を挙げる人が多くなっています。

Q5 希望する働き方ができる環境とは、どのようなものですか？（３つまで選択）

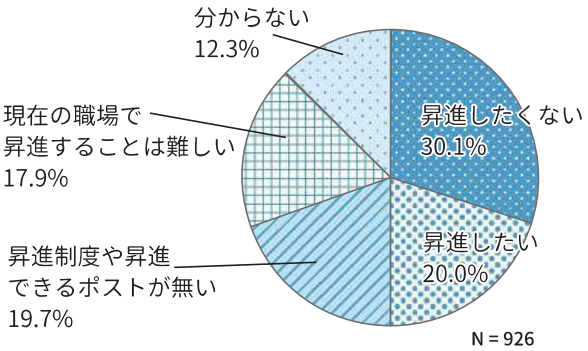


やりがいや処遇の充実、ワーク・ライフ・バランスを重視

「自分にとってやりがいがあると思える仕事をすることができる」が 63.3% と最も高く、次いで「処遇や福利厚生が充実している」(58.3%)「従業員の個人的な生活時間の確保に配慮する雰囲気がある」(53.8%) となっており、やりがい、処遇の充実やワーク・ライフ・バランスに関連する項目が並びました。

Q6 現在の職場で昇進したいと思いますか？

（「昇進」とは、現在より権限や責任が大きい仕事に就くことや、非正規社員の方が正社員に登用される状況などを含む）



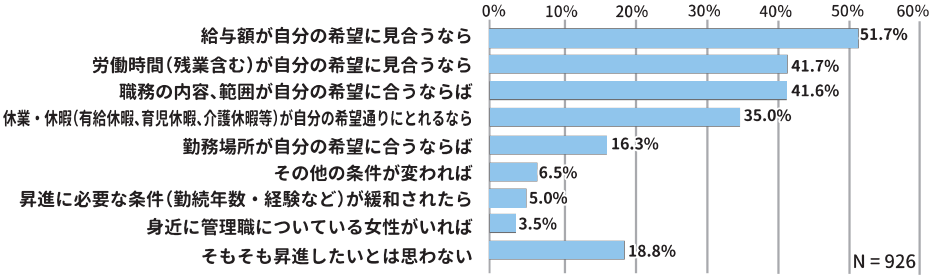
「昇進したくない」が３割にのぼる一方で「昇進したい」と「昇進制度やポストが無い」が各２割

「昇進したくない」は 30.1%、「昇進したい」は 20.0% となっています。一方で、「昇進制度や昇進できるポストが無い」が 19.7%、「現在の職場で昇進することは難しい」が 17.9% となり、キャリア形成が難しい環境にある女性の存在が浮き彫りになりました。

自由記述欄の声

・キャリアアップしたいと思うが、残業・休日返上でがむしゃらに働かなければならず、長時間労働の是正など女性の働く環境に目を向けてほしい。

Q7 どのような状況であれば昇進したいと思いますか？



給与や労働時間などの待遇、職務内容を重視

「給与額が自分の希望に見合うなら」が 51.7%、次いで「労働時間（残業含む）が自分の希望に見合うなら」(41.7%)、「職務の内容、範囲が自分の希望に合うならば」(41.6%) となりました。

自由記述欄の声

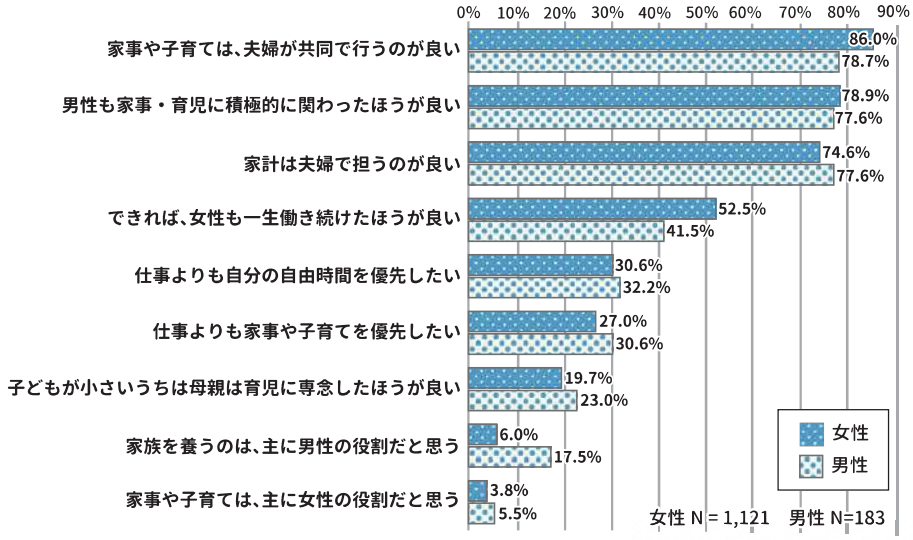
・職場の理解や環境が良くないと、正社員に登用されにくい。

03 家庭生活について

Q8 女性と男性の役割分担について、ご自身の考え方をお答えください。(当てはまるものをすべて選択)

(本設問のみ、男性にも回答いただきました。)

家事や子育てを夫婦共同で行うのが良いと考える人が８割以上



女性回答者では「家事や子育ては、夫婦が共同で行うのが良い」(86.0%) が最も高く、ついで「男性も家事・育児に積極的に関わったほうが良い」(78.9%)、「家計は夫婦で担うのが良い」(74.6%) となっています。背景として、山形県は共働き率や、働くママの割合が全国トップレベルであることから、多くの女性が家事・育児を分かち合うことを希望していると考えられます。

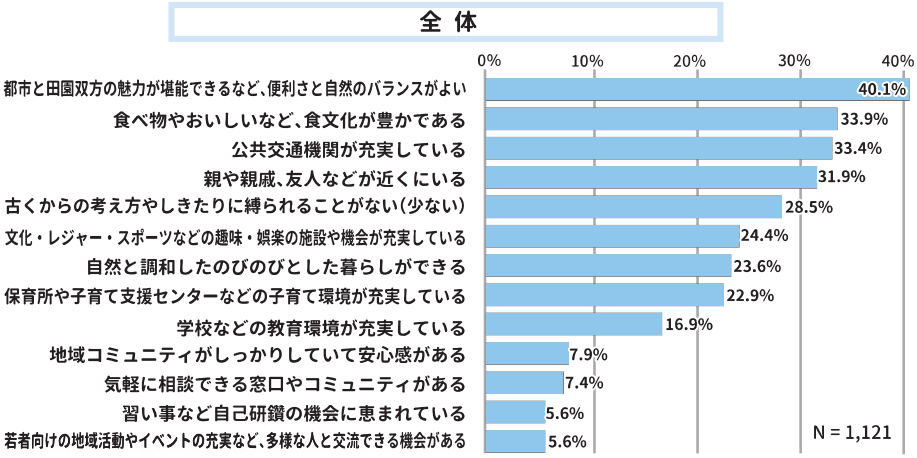
また、男性回答者も、女性と同じ項目順となっており、男性自身も家事や子育てを分かち合うことが良いと考えていることがうかがえます。

自由記述欄の声

- 若い世帯は、子育てにも二人で向きあうなど、柔軟に自分の立ち位置を見つけている。女性が働き続けるには相互協力が欠かせない。
- いまだに結婚して子どもをもつのが当たり前、女性は仕事も家事も全力でやるのが当たり前という考え方が蔓延している。

04 地域・暮らしについて

Q9 希望する暮らし方ができる環境とはどのようなものですか？(３つまで選択)

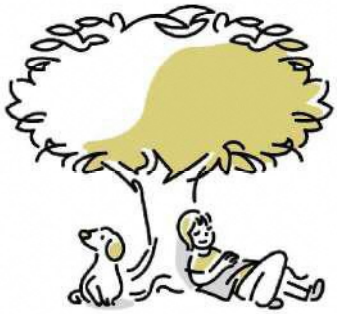


便利さと自然のバランスの良さを挙げる人が 40% に

「都市と田園双方の魅力が堪能できるなど、便利さと自然のバランスが良い」が 40.1% と最も高く、ついで「食べ物がおいしいなど、食文化の豊かさ」(33.9%)、「公共交通機関が充実している」(33.4%) がとなっています。

自由記述欄の声

- 周りの人も職場の年配者もあまり年齢や性別にかかわらず、のびのびと仕事や生活ができているように思う。
- 地域の人があたたかく、野菜をもらったりイベントに参加したりと楽しいこともある。



年代別			
	10代・20代 N = 280	30代・40代 N = 649	50代・60代以上 N = 192
1位	都市と田園双方の魅力が堪能できる	都市と田園双方の魅力が堪能できる	都市と田園双方の魅力が堪能できる
2位	子育て環境が充実している	公共交通機関が充実している	食文化が豊かである
3位	食文化が豊かである	食文化が豊かである	公共交通機関が充実している

10代・20代は「子育て環境の充実」を重視

年代別の傾向として、すべての世代で「都市と田園双方の魅力が堪能できる」が第1位となった一方、出産と子育てを意識する年代である10代・20代の第2位は「保育所や子育て支援センターなどの子育て環境が充実している」となっています。

今後の人生で最も長く住みたい場所別		
	県内に住みたい女性 N = 637	県外に住みたい特に決めていない女性 N = 484
1位	親戚や友人が近くにいる（同率1位）	公共交通機関が充実している
2位	食文化が豊か（同率1位）	都市と田園双方の魅力が堪能できる
3位	都市と田園双方の魅力が堪能できる	古くからのしきたりに縛られない

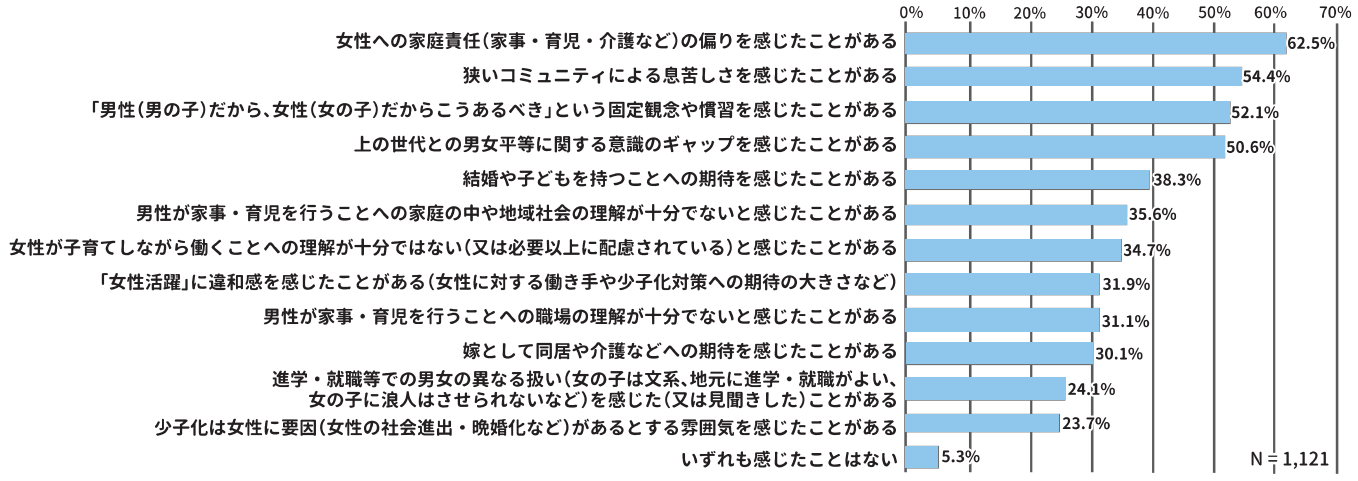
県内希望の女性は人とのつながり、県外希望・特に決めていない女性はしきたりの少なさを重視

県内に住みたい女性は「親戚や友人が近くにいる」が1位になり、人とのつながりを重視する傾向が見られました。一方、県外希望・特に決めていない女性は、「古くからの考えかたやしきたりに縛られない（少ない）」が3位になりました。

05 山形県で暮らし、働くことへの意識について

Q10 これまでの山形県での仕事や暮らしの中で次のようなモヤモヤ（悔しい、がっかり、残念など）を感じたことはありますか？（当てはまるものをすべて選択）

家庭責任の偏りや、固定観念、慣習に違和感を感じる人が半数以上に



「女性への家庭責任（家事・育児・介護など）の偏りを感じたことがある」が62.5%にのぼり最も高く、ついで「狭いコミュニティによる息苦しさを感じたことがある（54.4%）、「男性だから女性だからという固定観念や慣習を感じたことがある」（52.1%）となっています。また、「上の世代と男女平等に関する意識のギャップを感じたことがある」についても50.6%と半数以上にのぼっており依然として根強い固定的な役割分担意識や性差への偏見・思い込み（アンコンシャス・バイアス（※））があることが明らかになりました。

※アンコンシャス・バイアスについてはP15をご覧ください。

自由記述欄の声

- 概ねシニア世代に、性別役割を果たしてこそ好きなことができる、そうでなくては一人前ではない、という考え方を持つ人もおり、それで悩む女性もいるように思う。
- 長男の嫁は同居し、介護や家庭のことを全てするのが当たり前という考えが根強い。
- 地域のしきたりや近所づきあいが強すぎてプライバシーがない点が嫌だと思うことがある。

実行委員会の声 04

実行委員をやってみての感想

山形へのいろんな想いを持っている女性がいると知り視野が広がった。

実行委員会の活動をきっかけに新聞などで地元の情報をよく見るようになった。
こういった活動は、地元を知ろうとする原動力になると実感した。

自分を取り巻く環境がどうしたらもっと良くなるか考える機会になり、前向きな気持ちになった。

「山形にも未来がある」と考えている人が集まる場で良かった。山形に帰りたい気持ちが強くなった。

若者の流出を食い止め、回帰を進めるためにも、若い世代に今回の事業の動きを届けたい。

いろいろな人（I ターン、外に出た人、山形の人）と話せたのは良かった。普段関わらない人と話せたので、視野が広がったように思う。

活動を終えて

「女性も幸せに暮らし働ける山形県になるには」を考えました。

一番大切なことは、
若い女性が「いろんな選択肢がある」と感じられること

そのためには…

県内外の女性には…

「多様な生き方・暮らし方・働き方をする県内女性の姿」を伝えることが大切

【具体的には】
- 少し先の「自分」が見えるような、手に届く隣の女性をロールモデルとして発信
- いわゆる「普通」の枠では収まらない人もどんどん紹介
- 一人ひとり違う「いきいき」を尊重

周囲の皆さんには…

若い女性の多様な生き方・選択・価値観を尊重し、自分の考えを押しつけないことが大切

【具体的には】
- 「女性は結婚して子どもを産むもの」などと決めつけない
- 「女性らしさ」より「その人らしさ」を尊重
- 既婚・未婚、子どもや仕事の有無に関係なく、いきいきと生きられる風潮づくり

性別に縛られず、
生き方の多様性を互いに認め合える山形県にしていきませんか？

参考

多様性を認めあえる社会にするためのキーワード

アンコンシャス・バイアスって何？

「無意識の思い込み・決めつけ」のことで、事例として「組織のリーダーは男性の方が向いている」「家事・育児は女性の仕事だ」などが挙げられています。アンコンシャス・バイアスは誰にでもあり、時に自己基準で決めつけてしまうことで、相手を傷つけたり、可能性を狭めてしまうなどの問題が起きる場合があります。誰もがその個性や能力を十分に発揮し、活力ある社会を維持するためにも、決めつけや押しつけに注意し、お互いの意見・価値観を尊重しましょう。

女性も幸せに暮らし働ける山形県のために 05

オンライン 100 人女子会、ネットアンケートでは、女性の様々なホンネが見えてきました。

「女性の声」から考える 誰もが暮らしやすい・働きやすい 山形県の実現に向けたヒント

職場では

◆　女性は山形県内の仕事に対して、職種の偏りや都会よりも仕事の種類が限られること、賃金の安さなどへのマイナスイメージを持ち、また女性が仕事で活躍するのは難しそうと感じています。

　一方で、「“山形には仕事はない”は思い込み」「高校までの間にどれだけ山形を知るかが大切」「様々な世代の女性と話せる機会を増やして、選択肢や視野を広げられたら良い」という意見もあり、**早い段階での多様な仕事・働き方・生き方のロールモデル（※）の提示が重要です。また、やりがいや十分な所得が得られる多様な仕事の創出も求められています。**

※ロールモデルとはキャリア形成の上でお手本になる人物

◆　多くの女性が「仕事で活躍するキャリア」と「プライベートの充実」のどちらも大事にしたいと考えています。女性も男性も能力を十分に発揮していきいきと働き、同時に自分や家族との時間も大切にできるよう**処遇の改善・活躍の場の拡大や柔軟な働き方・男性の育児休業の取得の推進などが必要です。**

家庭では

◆　「女性はこうあるべき」などの決めつけや無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に多くの女性が違和感を持っています。また、**家庭に対する考え方は時代とともに変化しており、「世代間の男女平等の意識のギャップ」も感じているようです。**

　多様な女性の「生き方・価値観」を尊重することが大切ではないでしょうか。

◆　育児に協力的な男性は多いものの、家事・介護などの家庭責任の偏りに負担感を感じている女性は多く、その姿を見て育つ子ども世代への影響も見てとれました。一人一人が「**性別に関係なくパートナー・家族とお互い協力しあって生きる**」ことができるよう、家庭内での役割分担などを話し合ってみてはいかがでしょうか。

地域では

◆　地域コミュニティ（人と人のつながり）に「安心感」がある一方で、同調圧力やプライバシーのなさなどに「窮屈さ」を感じている人も多くいました。人とのつながりは大切にしつつ、**「常識」や「何を幸せと感じるか」は違うということを頭に置いて、多様性を尊重していきましょう。**

◆　若者や女性が参画、発言しづらい、性別や年齢で役割が固定化しているなど、「地域に存在する格差」があるようです。**地域行事の慣習や話し合いの顔ぶれは年齢・性別などに、固定化や偏りはありませんか？**

　時には活動を見直したり、活動を持続させるために女性・若い人なども参画しやすい仕組みを作るなど、**「これまでやって来たやり方」にこだわらず、できることから始めていきましょう。**

＊リポートに掲載しているグラフの構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100% にならないことがあります。

「オンライン 100 人女子会プロジェクト」リポート
発行日：令和４年３月
問合せ：山形県 しあわせ子育て応援部 女性・若者活躍推進課
TEL.023-630-3269　　FAX.023-632-8238
制　作：「オンライン 100 人女子会プロジェクト」事務局（株式会社山形テレビ）

～オンライン 100 人女子会プロジェクトに関するより詳しい情報は、県 HP をご覧ください。～